

熊谷市の歴史的建造物

— 熊谷の歴史・文化を語り継ぐ建造物群 —

有形文化財と建造物

1950(昭和25)年制定の文化財保護法において「文化財」は我が国の歴史、文化の正しい理解のために欠くことのできな貴重な国民財産と定義されている。このうち、建造物、工芸品、彫刻、書跡、典籍、古文書、考古資料、歴史資料などの有形の文化的所産で、我が国にとって歴史上、芸術上、学術上価値の高いものを「有形文化財」と総称している。文化財の指定では、国が指定する国宝・重要文化財と国が登録する登録有形文化財(建造物)をはじめ、都道府県ならびに市町村が指定する有形文化財がある。この有形文化財に含まれる建造物は熊谷市の各地に所在し、郷土の歴史と文化を語り継ぐ市民共有の貴重な遺産となっている。

日本橋公会堂(熊谷市) 川口公会堂(熊谷市)



熊谷市の 歴史的建造物

1 歓喜院聖天堂 熊谷市要沼1511 国庫・重要文化財

歓喜院聖天堂は、1735(享保20)年から1760(宝暦10)年にかけて、林兵衛正清と及び正信を棟梁とした大工集団により建てられた。日光東照宮の創建から百年余後の建造物で、成徳寺とよな時代、棟梁の棟梁の下、日光東照宮の修繕にも参加した職人達によって、優れた技術が惜しまれなく伝承された聖天堂は、江戸時代建築の分水嶺とも評価され、江戸後期装飾建築の代表例に挙げられる。彫刻は上州花輪村(現・群馬高みどり市)の石匠八郎が彫る彫物師たちが担当した。

これまで知られていなかった彫刻技術の高さに加え、修理の過程で明らかになった漆の使い分けなどの高度な技術が駆使された近世装飾建築の頂点をなす建物であること、またそのような建物の建設が民衆の力によって成し遂げられた点が、文化史上高い価値を有すると評価され、国庫に指定された。

2012(平成24)年7月9日指定



「歓喜院聖天堂」正面 「歓喜院聖天堂」の中敷から奥庭を望む

2 責徳門 熊谷市要沼1511 国庫・重要文化財

責徳門は、1853(嘉永5)年に築工した聖徳聖天山の山門で、三間一戸の形、二重瓦葺、瓦葺敷瓦、軒行3.2m、梁行5.2m、棟高13.3mである。2階は床組が女「厨屋のみ」を二重とした重層門である。初重重層は左右対称の屋根形式として、それぞれ独立した破風を行く。それらを重層下に組みあがりに上層の破風の廻りから、重層の破風の廻りから、奇抜で意匠的な形式が特徴的な門である。

設計者は、1742(寛政2)年の江戸大洪水(荒川、利根川)の災害復旧の御手紙書請うこの地に建造された。期防古川藤(現・山形県古川市)の長谷川石門門長由である。当時これを建造する命はあく、百年余を経て、棟梁の林定造により完成させた。彫刻は上州花輪村(現・群馬高みどり市)の石匠八郎(主判)が担当した。柱頭彫りや軒やかに彫る彫物師は素木のケヤキ材で、彩色に代わって彫りや彩色が施されている。

聖天堂建立以降、幕末期に至るまで、立休化・御化が盛んな彫刻技法の特徴を見ている。それらの彫刻には聖徳聖天山が彫られており、聖天堂と同様、庶民信仰の形態を象徴している。

2002(平成14)年5月23日指定



3 平山家住宅 熊谷市鎌倉1067 国庫・重要文化財

平山家住宅は、江戸時代中期、旧鎌倉村の名主役を務めた平山家七代目の勘右衛門(1670-1708年)の頃に農業住宅として建造されたと推定される。現存する文化財の民家住宅としては、熊谷地区最大規模を誇る。現在も熊谷地区に家の上層が残されている。主屋の外観は人形屋造、重厚な茅葺屋根が特徴で東西方向の幅は約17m、南北方向の幅は約12mの規模を誇る。建物は、軒行19.3m、梁行10.0mの規模で、西・南面は大規模な方に二階建てを造り出し、別荘的な大規模の構造が下支えしている。豪住造りの間取りで「三間取入型広間」に分類され、吹抜けの天井とならぬ吹抜の土間にカマドやウマが設けられている。全体的に能く家裏では人間の背丈ほどである。破風には、家紋を配した化粧板が装飾されている。1975(昭和50)年9月から1977(昭和52)年3月にかけて復元保存のための解体修理が行われた。

1971(昭和46)年6月22日指定



4 龍泉寺観音堂 熊谷市鎌倉187 埼玉県指定文化財

聖徳聖天山の龍泉寺は室町時代の縁切り、僧長海によって開山されたと伝えられている。龍泉寺の観音堂は、円柱造、床は土間となっており、二階四面方形の構造で、建物は、相模を模った(間和床またはまがら)柱間は中間を広く取り、室町時代の特徴を表している。また、相模と唐様式の2種類の様式を巧みに織り交ぜて、当時の端正な趣を備えている代表的な建造物のひとつに数えられる。軒彫りや、厨師の彫刻、木窓の彫り彫られた彫物師などは、一部が修復されて現存している。

1959(昭和34)年3月20日指定



5 上之村神社本殿・雷電神社本殿 熊谷市上之116 埼玉県指定文化財

上之村神社の創建年代は不詳であるが、応永年間(1394-1427年)に成田家時が社殿を再建、当地を治めていた成田氏の厚い崇敬を受けていたと伝わる。古くは、入伊豆神社とした。寺地蔵の厨上之村・田圃田中・田圃上之村の御守であり、1604(慶長10)年御守から社額三十石の御本印状を拝領した。明治時代は、諏訪神社・伊奈神社・浅間神社・諏訪神社・天神社・寛神社・住吉神社・夷神社などの計10社を合併した。

上之村神社本殿は、建築の技法や装飾彫刻の特徴から、17世紀初期頃の建立と推定されている。一間の幅(約1.8m)の檼間で檼間を支える一間柱流造の構造で、旧来の茅葺から銅板葺に改装された。桃山時代の彫影を模し、屋根の破風で流れるような曲線を最大の特徴で全体の風情を一層高めている。破風で流れるような彫影が各所に配置され、檼間上部(「寄敷」)と呼ばれる装飾には二支が表現されている。

雷電神社は上之村神社の摂社で、現在は、「大雷神社」と呼ばれている。雷電神社本殿は開口、奥行き670mm程の規模であるが、上之村神社本殿と同じ一間柱流造、屋根は銅板葺である。かつての雷電神社本殿の額は、寛文から1558(永保元)年に成田家長が寄進したことが記されている。

1996(昭和71)年3月6日指定



「上之村神社本殿」 「雷電神社本殿」

6 諏訪神社本殿 熊谷市上新田227 埼玉県指定文化財

諏訪神社本殿は、当地の葉田信右衛門忠忠によって1746(寛政3)年に建立されたと伝えられ、その後、1852(嘉永5)年に焼失された。創建時の様式によると、「歓喜院聖天堂」の造営に深く関わった三ヶ尻村(現・熊谷市三ヶ尻)出身の内田八郎が大工棟梁となり、上州花輪村(現・群馬高みどり市)出身の石匠八郎及び門下の彫物師を担当した。また、林右衛門が職工の意匠に関わった。彩色は聖天堂と同じ狩野派の絵師が描き、高い技術力を発揮した。同時期に建立を進めていた聖徳聖天山「歓喜院聖天堂」の工事中の間にこの本殿が手掛られたものと推定される。檼皮葺の屋根は信州松本城下の田代藩陣女との技術に受け継がれ、各工集団によって本殿の建立がなされたことが分かる。

本殿の構造は、軒行1.47m、梁行2.27mの構造による一間柱流造で、屋根の下には三角の形をした千鳥破風。軒の下には上部が丸く彫られる寄敷破風を付け、正面には彫影が用いた向形を彫り、現存、彩色が多く残されているが、各所に施された人物や動物の装飾彫物師から見たる各工集団が常々、次第の規模向上と風格を醸成していることが分かる。

2016(平成28)年3月15日指定



7 文殊寺仁王門 熊谷市野郎623 熊谷市指定文化財

文殊寺は、古くは龍泉寺といわれ、室町時代の1481(文明13)年に焼失したが、その2年後に高見城(現小川町所)の城主であった増田四郎重高が再建した。その際に加念をつかさどる文殊菩薩を祀り、文殊寺と称したことが始まる。

文殊寺仁王門は参道の始まりにたまたま承徳の門で、建立時期は建築形式及び形制を推し合わせる方法ながら、江戸時代中期であると推定される。仁王門の構造は八間門で、見張は二つの扉組が重なり合っ建造であり、門中の左右には仁王像が安置されている。「新編武蔵風土記」(19世紀初期)によると、文殊寺の龍泉(寺院境内の配置)は、本堂や山門、仁王門などの約10棟の建物によって構成されていたが、重要な火災等によりその大半が失われ、当時の面影を残す建造物は仁王門だけとなっている。仁王門の屋根にはある破風には、「聖徳皇」と呼ばれる象の彫像を基にしたうろこ彫りや付られ、水と龍の間の深い彫影に彫ることにより、火災を予防するというものである。

1957(昭和32)年10月18日指定



8 柴田家書院 熊谷市上新田90-1 熊谷市指定文化財

柴田家書院は、江戸時代中期に建造され、書院造の特色が活かされている。本書院の主室は、10段の上段の間であり、床・障子・建築様式を造り、左上に縁の人形、右に縁の間の間、前後は長巻障子を入りとし、障子の障子下縁は漆塗であったものを現在のように改装したと考えられる。室内の特色は、豪華な彫刻が主所に施され、江戸中期の社寺建築などの影響も推定される。

1957(昭和32)年10月18日指定



9 四脚門 熊谷市要沼1511 熊谷市指定文化財

聖徳聖天山にある四脚門は、室町時代の公家などの正門として多く建てられた様式と同様であり、江戸初期に建てられたと推定される。高さ5.5m、柱間5.5m、棟高2.9m、丸柱の上部に加巻の施工があり、本堂及び御蔵の壁など室町時代の建築以降の影響が見られる。屋根は瓦葺茅葺であったが、江戸時代末期に化粧板を覆して瓦葺の形が加えられている。中門、第五門とも称されている。

1962(昭和37)年8月30日指定



10 根岸家長屋門

根岸家は、江戸時代、当地の名士を慕う豪家であり、その面影を残す根岸家長屋門の建設された時期は寛政中期(1789~1804年)の間に伝えられている。根岸家長屋門の規模は、東の奥3間、北の奥3間、奥壁高さ10mを誇り、正面左側は桐蔭塗の「巫式所」として使われ、右側は当時の番頭たちの転場に使われた部屋が設けられていた。敷地中には主屋の他に、土蔵1棟、西蔵1棟があり、更に奥には奥蔵の二重倉が設けられていた。
なお、根岸家長屋門は、2010(平成22)年度に屋根瓦の葺き替えを中心とした修復工事を実施し、建設当初の面影を復元した。また、かつて巫式所として使われていた場所に「火山・武者ミュージアム」を開設し、根岸家の歴史を紹介するパネルや覚川の湧水を鑑賞できる「三重倉」などを展示している。
1979(昭和54)年5月14日指定



11 青山神社本殿

青山神社本殿は青山地区にある山中古墳(県指定文化財)の墳頂部に祀られている社殿である。青山神社の社記によると、1608(慶長13)年の春に村人が柳や織、土偶などを奉納したところ、その夜まもなく村中に雨が降したことになり、再び降ると、自らを鎮めるために人柱社を建てたことが社社の創建であるとされている。
現在の本殿は、彫刻家團に「残る記述から、1732(宝暦2)年の建立であると推定される。建造物の構造は本殿正面の2本の柱で重層の部屋を支える一階建てで、東側に扉行・影行があり、棟高3m、全面に彫刻が施され精緻な装束を彫っている。彫色の大半は失われているが、彫りに注がれた高度な技術が目につくことができる。本殿彫刻の製作は、美濃聖天山本殿の面影(新宮聖天山)の彫像を祖とした彫刻集団によるものと考えられている。彫像の特徴として、正面の扉に描かれた彫像は、聖天山の奥蔵西面に彫られた「阿彌陀文楽図」を仿写とさせ、扉面を中心に彫られた数々の彫像の彫像は、流し彫りの技法が用いられるなど、聖天山において数多く表現された彫刻彫像との類似性が窺える。
1979(昭和54)年5月14日指定



12 上之村神社鳥居

上之村神社鳥居は上之村神社本殿正面の本造の両部鳥居である。1995(平成7)年の解体修理の際に、柱にはぞから、棟上と大工の両面などに1641(寛文11)年に建てられたことを示す遺書が発見されている。笠木や柱柱の上に板瓦を敷くなど耐久性にも十分考えられた市内最古の木造鳥居として貴重なものである。
1997(平成9)年11月9日指定



13 坂田医院旧診療所

坂田医院旧診療所は、故・田嶋太郎氏が産科病院として1931(昭和6)年に建造した。構造は鉄筋コンクリートによる平屋建て、床面積は216.72㎡で、玄関一式を付し、正面をスクエア型とする風情代建築である。
基本的にはこれまで改変もなく建造当時の姿を残しており、昭和初期の地方近代建築の貴重な遺構であると評価され、国登録有形文化財となった。タイル貼の手廻りや特徴的な照明装置が残るフロント廊など、各部細い機能的な特徴も見られ、病院建築の好材料建材としても知られる。1970年代後半まで診療所として使用されていたが、その後、田美酒町(現・熊谷市)が購入し、現在に至っている。
2004(平成16)年8月17日登録



14 日本聖公会熊谷聖パウロ教会礼拝堂・門

日本聖公会熊谷聖パウロ教会は、1882(明治15)年、東京で聖パウロ宗徒の祝いに感ずる聖路加宗徒の人の運動が発祥となっている。1885(明治18)年には、この運動に応じて、日本人最初の聖公会聖職者である田井正一氏の説教が聞かれ、その翌年には井井氏が当地へ派遣されて熊谷教区を創設した。
1915(大正4)年には、現在の地に新たな礼拝堂を造る計画が提案され、翌年に米国人建築家ウィリアム・ウィルソンによって設計が行われた。そして、1919(大正8)年、着工から4年の歳月を経て建造物の設計が完成した。その間各地を巡る日本聖公会をめぐり、1920(大正9)年や西島宇地蔵(1921)年に上野・後援した大太平洋戦争の終戦直前に熊谷空襲(1945年)による火災被害からも免れた。
建物と鐘楼を持つ平屋建ての構造であり、建築面積141㎡、鐘楼の1階部分は入口ポーチとなり、礼拝堂にはフレスコ(礼拝準備室)が付設されている。鐘樓の扉は洋風だが内側は、戦後に日本瓦に葺き替えられた。礼拝堂の入口には鐘瓦造の門が設けられ、礼拝堂の入口ポーチと向き合っている。
2005(平成17)年12月5日登録



15 美濃聖天山の建造物群

2017(平成29)年、美濃聖天山に所在する「歌敷龍藏堂、龍蔵、開善堂、三宝堂神社、五柱大明神、天満社、仁王門、水屋、平和の塔」の9件が国の有形文化財(建造物)に登録された。これらの建造物は国登録有形文化財(建造物)を申請した大工棟師が彫刻や建築といった技術を継承した建築の宝庫を明らかにし、地域の伝統文化の継承と発展に貢献している。2017(平成29)年5月2日登録

一 建造物の概要



龍蔵 龍蔵は聖天山の北東に位置する本造2階建、寄棟造り瓦葺の建物で、建前面積は185㎡である。1879(明治12)年に建立された。建前高さ15mである。右造と中央に坪戸を縦た平に明瞭な影が映る。南側には特別風造彫像が施されている。彫像は天正期に上と下と、ともに2段の彫像を2列に作り、上四階に彫下を彫らしている。2階各段は、透彫の欄間などの彫像が見られ、1885(明治18)年に聖天山龍蔵堂が休息所として行得された。	鐘樓 鐘樓は聖天山の東に位置する本造2階建、入母屋造り瓦葺の建物で、1761(宝暦11)年に建立された。建前面積は35㎡である。右造と中央に坪戸を縦た平に明瞭な影が映る。南側には特別風造彫像が施されている。彫像は天正期に上と下と、ともに2段の彫像を2列に作り、上四階に彫下を彫らしている。2階各段は、透彫の欄間などの彫像が見られ、1885(明治18)年に聖天山龍蔵堂が休息所として行得された。	開善弁堂 開善弁堂は聖天山の南東に位置する本造平屋建、入母屋造り瓦葺の建物で、江戸時代後期の建立と推定されている。建前面積は15㎡である。中央に坪戸を縦た平に明瞭な影が映る。南側には特別風造彫像が施されている。彫像は天正期に上と下と、ともに2段の彫像を2列に作り、上四階に彫下を彫らしている。2階各段は、透彫の欄間などの彫像が見られ、1885(明治18)年に聖天山龍蔵堂が休息所として行得された。
--	--	--



三宝堂神社 三宝堂神社は聖天山の南東に位置する一階社造り瓦葺、素木造、副棟葺の社で、1787(天明7)年に建立された。建築面積は3.9㎡である。建前高さ15mである。南から神宮司、龍蔵大明神、歌敷大明神、龍蔵大明神の順に並び、それぞれ彫像が彫られている。1785(天明5)年の龍蔵堂の建築と推定される。大工棟師は林兵衛正吉が建てた。	五柱大明神 五柱大明神は1783(天明3)年に建立され、聖天山の南東に位置する本造平屋建、素木造、副棟葺の小社で、建築面積は3.9㎡である。建前高さ15mである。南から神宮司、龍蔵大明神、歌敷大明神、龍蔵大明神の順に並び、それぞれ彫像が彫られている。1785(天明5)年の龍蔵堂の建築と推定される。大工棟師は林兵衛正吉が建てた。	天満社 天満社は聖天山の南東に位置する本造平屋建、素木造、副棟葺の社で、建築面積は3.9㎡である。建前高さ15mである。南から神宮司、龍蔵大明神、歌敷大明神、龍蔵大明神の順に並び、それぞれ彫像が彫られている。1785(天明5)年の龍蔵堂の建築と推定される。大工棟師は林兵衛正吉が建てた。
--	--	---



仁王門 仁王門は1894(明治27)年に建立され、聖天山の南東に位置する本造、切妻造り瓦葺で高3.1mである。左右に仁王門と同時期の明治時代中期に建てられた、中央の彫像は20世紀に彫刻された彫像に、花鳥の精緻な彫像を飾っている。建築面積は75㎡である。大工棟師は林村正吉が建てた。1931(昭和6)年に聖天山龍蔵堂が休息所として行得された。	水屋 水屋は聖天山の東側に位置する本造、切妻造り瓦葺で高3.1mである。左右に仁王門と同時期の明治時代中期に建てられた、中央の彫像は20世紀に彫刻された彫像に、花鳥の精緻な彫像を飾っている。建築面積は75㎡である。大工棟師は林村正吉が建てた。1931(昭和6)年に聖天山龍蔵堂が休息所として行得された。	平和の塔 平和の塔は聖天山の北東に位置する本造、切妻造り瓦葺の塔で、1958(昭和33)年に建立され、建築面積は17㎡である。1951(昭和26)年に建てられた。塔の内部には、一画龍蔵堂の復興と聖天山の歴史を記念する彫像が設置されている。塔の高さは11mである。塔の内部には、一画龍蔵堂の復興と聖天山の歴史を記念する彫像が設置されている。塔の高さは11mである。
--	---	---

16 常光院本堂 熊谷市上中東1160

常光院は鎌倉時代に中条家長が建立した寺である。江戸時代になると、徳川家康や忠城主の松平忠吉などから庇護を受け、当時の寺格としては上野寛永寺に次ぐ開基2次であった。常光院本堂は、1652年(寛保2年)頃に再建されたもので、木造平屋瓦葺の茅葺であり、内部の内陣・外陣には説が敷かれている。内部には創建時に使用された材が再利用された形跡もあり、それぞれの時代の建築的技術が継承されていることが分かる。「熊平の殿」などの文化財も収蔵されている。

2018(平成30)年3月30日指定

熊谷市指定文化財



18 旧石坂養平邸 熊谷市中南段2055

旧石坂養平邸は、文芸評論家や政治家として活躍し、実業界や文化芸術への貢献でも知られる故・石坂養平の邸宅である。邸宅は天正時代から約10年を要し1830(天明5)年頃に木造2階建ての洋館として建てられ、その後には重厚な和館が建築された。外観から、1階部における石組み風に見せる壁面の構成や、2階部における貴色系の土質塗りのによる壁面加工を注目することができ、非親念の増設を設け、建物の正面中央部にはゴシック様式の扉面を特徴とするモティーフが施されている。



17 赤城久伊豆神社本殿 熊谷市石原1007

赤城久伊豆神社本殿は、二間社流造で、修理された棟札に記されている築年が1570(天正8)年であると推定される。屋根は銅板瓦葺であり、旧来のこけら葺きもその下に残る。社殿形制は全体的に簡素であるが、前面左右の重畳と呼ばれる部位の組み込み方は技術的な高さを示している。重畳部は彫刻が施され、立体的に彫り上げる彫刻と呼ばれる技法が使われている。左右の唐破風彫刻は骨幹彫が施されており、現在もわずかに色が残存している。棟札には、旧三ヶ尻村の秋山藤八正勝が棟梁として建立されたことが示されており、秋山家と石坂家との縁の石も見える。

2018(平成30)年3月30日指定

熊谷市指定文化財



19 片倉シルク記念館 熊谷市本石2-135

片倉シルク記念館は、片倉工業株式会社最後の製糸工場であった熊谷工場の織倉庫など2棟を利用して開設された記念館である。2007(平成19)年には経済産業省の「近代化産業遺産」に認定された。館内には同社の創業120年を見守り歴史を保存継承することを目的として、熊谷工場の作業時に使われていた製糸機械が展示され、繭から糸になるまでの過程が解説紹介されている。



20 長島記念館 熊谷市小八村1022

長島記念館は、埼玉県経済界の発展に貢献した故・長島勘助氏の生家であり、記念館として整備された。石組みの礎と白壁の長屋門が敬儀の前面に位置し、中央には江戸時代に建造された母屋が残されている。正門右側に位置する2つの蔵は1920(大正9)年に建造され、その外観は大正様式が用いられている。現在長島記念館となり、長島氏が収集した日本美術史を代表する商家道すの作品や歴史資料などが展示されている。



文化財保護シンボルマークは、文化財保護運動を全国的に展開するための標記として1969(昭和44)年制定された。このシンボルマークは、広げた両方の手のひらのパターンによって日本産繭の重要な要素である「お絹(こまこま)編み目の」のイメージを表し、これを3つ重ねることにより、文化財といふ意味の糸の連続性を表し、個性、本来の持ち味を生かしつつ、つぎつぎと受け継ぐ精神を象徴したものである。「お絹」は国産「取原製天童」をはじめ熊谷地域の社寺建築や住宅建築の部会の一つとして見ることもできる。

熊谷市 歴史的建造物 マップ



- 1 歡喜院聖天堂
- 2 貴徳門
- 3 平山家住宅
- 4 龍泉寺観音堂
- 5 上之村神社本殿・雷電神社本殿
- 6 諏訪神社本殿
- 7 文珠寺仁王門
- 8 柴田家書院
- 9 四脚門
- 10 根岸家長屋門

- 11 青山神社本殿
- 12 上之村神社鳥居
- 13 坂田医院旧診療所
- 14 日本聖公会
- 15 熊谷聖パウロ教会礼拝堂・門
- 16 妻沼聖天山の建造物群
- 17 常光院本堂
- 18 赤城久伊豆神社本殿
- 19 旧石坂養平邸
- 20 片倉シルク記念館
- 21 長島記念館

- ... 国定(国重要文化財)
- ... 国重要文化財
- ... 埼玉県指定文化財
- ... 熊谷市指定文化財
- ... 国登録有形文化財
- ... その他

主企画者文庫・資料
 ・熊谷市教育委員会「熊谷市誕生100周年記念事業:熊谷市文化財ガイドブック」熊谷市立江南文化財センター 編2016年・熊谷市教育委員会「東武聖天山建造物群・市内建造物調査報告」2016年・熊谷市教育委員会「熊谷市指定文化財調査報告」2016年・ものづく大学熊谷校「熊谷市指定文化財調査報告」2016年・熊谷市教育委員会「熊谷市指定文化財調査報告」2016年・熊谷市教育委員会「熊谷市指定文化財調査報告」2016年・熊谷市教育委員会「熊谷市指定文化財調査報告」2016年・熊谷市教育委員会「熊谷市指定文化財調査報告」2016年

発行:平成30年3月31日(2018/03/31)
 熊谷市立江南文化財センター(熊谷市教育委員会教育課文化財保護課)
 〒360-0107熊谷市東町329番地
 電話:048-536-5062/FAX:048-536-4575/メール:c-bunkazai@city.kumagaya.jp
 HP:「熊谷市デジタルミュージアム」http://www.kumagaya-bunkazai.jp/museum/index.htm
 表紙:熊谷染アザイン・堀、佐藤、藤原、木越、緒方